



## 夏の多摩動物公園紀行 / ライオン！ 編

2005年 8月 4日 掲載

乳児を抱えると、外出もままならない。でも、夏なのでどこかに行きたい！

そこで、日帰りで動物園に行くことにした。しかも、東京都日野市の多摩動物公園である。

東京都が運営しているということもあり、入場料が安い。大人600円、小学生以下は無料なのだ。

これなら、家族3人で行ってもしリーズナブルである。早速、平日朝から行くことにした。

この日は朝6時に起床、7時半に出発。平日朝ということもあり、一般道のみで2時間という目標を立てた。

9時半、予想通り2時間で多摩動物公園に到着。この時間は、実は開園時間でもあるのだ。

入口には、20人ほどの女子大生のグループが。どうも、ゼミで訪れたらしい。

我々も入場券を買い、中へ。まず目指すはライオンバスだ。

ライオンバスとは、ライオン舎の中にバスを走らせ、ライオンに接近できるというもの。日本では、ここが初めて行ったのだという。

その前に、急坂を上らなければいけない。実は、多摩動物公園は多摩丘陵に設けられているので、園内は起伏に富んでいるのだ。

何とか急坂を上りきり、ライオンバス乗り場に到着。早速1人350円の乗車券を購入し、10時始発のバスに乗る。

始発だけに、バスは満員。バスが出発すると、のっけからこんな光景を目にすることになった。



ガラスがなければ、それこそライオンに食われちまいそうな勢い。ライオンににらまれたり、バスの側面に付いた肉片をむさぼったりで、車内は

大興奮なのだ。

しかも、運転手の絶妙なハンドリングで、ほんの数cmの距離までライオンに接近。バスのすぐ脇を悠然と歩き回るライオンを見て、またまた興奮のるつぼとなる。

興奮冷めやらぬうちに、10分間の乗車が終了。あっという間のひとときだった。

続いては、アフリカゾウ舎へ。我々が着くと、何とゾウのシャワーを見ることができたのだ。



いくらサバンナ育ちのゾウとはいえ、日本の夏の暑さはこたえるのだろう。正直なところ、我々も水を浴びたいくらいなのだ。

ゾウの脇には、バオバブの木をくりぬいた展示コーナーが。ここには、2002年に産まれた子象の成長記録が写真で展示されていた。

アフリカゾウのあとは、フラミンゴ、サーバル、チーター、ダチョウ、キリンなどを見て回る。

この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



## 夏の多摩動物公園紀行 / コアラ！ 編

2005年 8 月14日掲載

今月は、夏休みに訪れた多摩動物公園紀行をお送りしているが、今回はその2回目。前回は[こちら](#)をご覧ください。

我々は、チンパンジー舎に到着。ここは、何と自販機でジュースを買うチンパンジーがいるのだ。



ところが、このときは誰もジュースを買わなかった。その代わりに、棒でおやつをつつき、穴に落ちるとそのおやつがもらえる「UFOキャッチャー」を楽しむチンパンジーがいたのだ。

さらに、子供用の「キッズルーム」では、子供のチンパンジーが保育園よろしく無邪気に遊んでいた。人間とはあまり変わらないのだ。

園内を歩いていると、我が息子がぐずり始めたので子供だけ昼食。休憩所を探し、中に入るとそこにはクジャクがいたのだ！



最初は剥製かと思ったが、動いているので本物。当たり前のようにそこにいるので、こちらが恐縮してしまう。

クジャクが見守る中、我が子に餌 いや、離乳食を与える。この日は暑いので、大人も水分補給が欠かせない。

ちょうど12時、休憩し終えて再び移動。トナカイ、アカカンガルー、エミューを見る。コアラ舎の脇に休憩所があり、ここで大人は食事をすることにした。

昼時とはいえ平日なので、大して混んではない。大人が食事の間、我が子もタイミングよく寝てくれた。

1時間ほど休憩し、コアラ舎へ。普段は樹上で寝ているだけのコアラだが、何と木から木へ機敏にわたるコアラがいたのだ。



さらに、木から下りて地上を歩き回る始末。なかなか貴重なものを見せてもらった。

コアラ舎で、泣いている子供を発見。どうも、コアラ舎全体がほぼ真っ暗だったため、怖くて泣いてしまったらしい。

コアラ舎を出て、ウォンバット、パルマワラビーなど、オーストラリアの動物を見て回る。

この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



## 夏の多摩動物公園紀行 / パンダ！ 編

2005年 8月21日掲載

今回は、多摩動物公園紀行の3回目。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれをご覧ください。

我々は、オランウータン舎に到着。ここには、「スカイウォーク」というものがある。

高さ15mのロープを150mにわたって張り、オランウータンが枝から枝へ移るのと同じ行動を見ることが可能。世界最大級で、今年4月にオープンした設備なのだ。

運がよければオランウータンがわたるところが見れるのだが、この日は暑さのため誰もわたっていなかった。しかし、途中の柱に設けられたステージでは、2頭のオランウータンが休憩していたのである。

スカイウォークのもう一方の終点では、1頭が樹上で遊んでいた。しかも、動物園の職員に言われてようやくその存在を確認できるくらいの茂みにいるので、その場にいた人でも姿を見ることが難しかったようだ。

オランウータン舎をあとにし、ユキヒョウを見る。そして、レッサーパンダ舎に到着した。

レッサーパンダといえば、今年の前半の話題をかつさらった動物。立ち姿が愛らしく、一躍人気者になったのだ。

「ここは立つのか？」と思いつつ、姿を探す。でも、暑さでやられたのしかいなかった。



しかし、よくみると、木の上で活発に遊んでいるレッサーパンダを発見。しかも、木から下りて目の前にやってくるではないか！

アライグマというか太った猫というか、そんな見た目がなかなかかわいい。回りの子供たちも釘付けになっていた。

ターキン、トキ、コウノトリ、ユリカモメなどを見て、正門脇のウォッチングセンターで休憩。暑い中、山を歩き回ったので疲労困憊である。

事前に用意したドリンクも底をつき、お茶を買う。頻りに水分補給したせいか、熱中症にはならなかった。

ところで、このウォッチングセンターには、ジャイアントパンダの剥製が置いてある。そのジャイアントパンダとは、1972年に日本で初めて上野動物園に送られた、ランランとカンカンなのだ。



今から25年以上も前になるが、幼稚園の遠足で上野動物園に行った。そのときにいたのが彼らである。

その当時はちゃんと見れたかどうかは、正直覚えていない。しかし、このような姿でお目にかかれるとは、感慨一塩である。

休憩を終え、売店でおみやげを購入。その後、ゼミを終えた女子大生に家族の写真を撮ってもらい、多摩動物公園をあとにする。

我が子が大きくなったら、今日の記憶はあるのだろうか？ そして、次回はどこへ行くのでしょうか？

[\[トップページ\]](#)